平成21年度　　1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272700566		
法人名	医療法人社団　千葉医心会		
事業所名	グループホーム　じょんから		
所在地	千葉県我孫子市布佐3078-9		
自己評価作成日	平成21年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成21年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

行事に力を入れていて、地域の方、ご家族、ご利用者に明るい笑顔になっていただけるよう頑張っています！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ここ1年、特に地域との密着にかなりの労力をはらい、努力をしてきている。管理者が、平成20年4月に地区社協委員を委嘱され、地域交流に広がりが出始め、認知症の啓蒙、近隣住民を招待してのチャリティコンサートの開催、お祭りへの参加、小学校や、園児を通じた地域触れ合いなど活発に活動している。5月には春祭りを計画しており、地域の福祉拠点への地歩をしっかり築いて来ている。また、ターミナルケアについても、今年初めて看取りを行い、職員はこの経験から多くの学びと自信を得ている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価（1階ユニット）・外部評価結果（全ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元の人達と交流を持ちながら明るい家庭的な雰囲気を目指すの理念のもと、職員一人一人が毎日それを頭に入れて働いている。	地域の幼稚園、小学校との交流、地域自治体・町内会への参加などを通してグループホームの活動・理念を宣伝し、管理者と職員とで日々地域との交流を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が地区社協の委員を務めており地域の一員として話し合い、行事等に参加している。	管理者が、平成20年4月に地区社協委員を委嘱され交流に広がりが出てきている。地域への認知症の啓蒙、近隣住民を招待してチャリティーコンサートの開催、お祭りへの参加、小学校や、園児を通じた地域触れ合いなど活発に活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元住民の集まりの場等を提供しホームの紹介もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数が少ないので地区の集まりだけでなく運営推進会議の方にも力を入れていきたい。	運営推進会議のメンバー全員を招集しての開催に苦労している。正式な会議は今年度は2回の開催にとどまった。しかしながら、メンバーへの活動報告・情報交換などは頻繁に行っており、運営会議の代わりとなっている。	メンバーの忙しさを考慮し、個々のメンバーとの交流・打ち合せ毎の記録などを作り、推進会議に準ずる会議として位置づけメンバー間で情報共有できるようにして有効に利用しゆくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールのやりとりだけに留まらずに実際に足を運ぶ機会を増やしていきたい。	地域社協の委員を委嘱され、自治体との交流は深まってきているが、担当窓口との直接の付き合いの機会が少ない。	事業所としては機会あるたびに直接、自治体に働きかける努力を続けることは大事であるが、自治体側も事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に聞き取る姿勢が望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会などを開いて学びの場をもち職員一人一人が絶対に身体拘束をしないように心がけている。	パート職員が中心となり、担当制で毎月学習会を開催している。全職員を含めた学習会は2回/2～3ヵ月で行っている。開放的なホームを心がけ、自由でしばりつけられない生活ができるよう実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会などを開いて学びの場をもち職員一人一人が絶対に高齢者虐待をしないように心がけ、日頃の利用者の身体チェックも欠かさずに行っている。		

グループホームじょんから　自己評価（1階ユニット）および評価結果（全体）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会などを開いて学びの場をもち関係機関との連絡体制を密にとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族・利用者と対面式で話しをし十分な理解のもと行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けており、毎月の連絡文にも何かあれば意見、要望をしていただけるような体制作りをしている。	面会票の工夫で意見の汲み取りを考えたが、家族等は意見を書くことに抵抗があり、寧ろ入居者や家族等との日常的な会話のなかで意見・要望を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	親睦会を定期的に開いてオープンに意見を述べられるようにしている。	定期的に開かれている親睦会の中でお互い意見・提案などを出し合い、管理者が必要なものについて運営に反映させている。	出された意見・提案を記録するようにすると運営への職員参加意欲が増すことが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等を獲得した場合は金一封を出すなど少しでも職員のやる気に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種、勉強会・講演会・研修等に参加できるように機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同学習会などの場を定期的に設けている。		

グループホームじょんから　自己評価（1階ユニット）および評価結果（全体）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く事が大切な事を職員1人1人が理解しており声かけを増やしてケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を築く事が大切な事を職員1人1人が理解しており声かけを増やしてケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困っているかを見極めて本人や家族がイメージどおりの介護提供になるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気のもと共に支援し合えるような関係作りを日々実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭的な雰囲気のもと共に支援し合えるような関係作りを日々実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活暦を大切にして関係者･機関との連絡体制をとっている。	「じょんからアルバム」を作っており、家族等にお便りとして配布し、近隣のスーパーへの掲示をするなど関係が継続できるよう工夫している。誕生日などの特別な日に友人に合わせるなど昔を思い出せる機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を把握して職員が仲介の立場になりながら共に支え合える支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談をできるように説明し関係機関にも伝達している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望を尊重しケアに取り入れている。	思いや意向を言葉に出す入居者もいるが、重度化し、伝えられない人もいる。職員は声かけや日々の触れ合い、表情などで、それぞれの思いや意向を把握しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご利用者と話し合いケアシートなどで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、ケアシートなどで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各関係者と話をし各々の意見を反映させたケアプラン作りをしている。	介護計画は、パートを含む職員と管理者、訪問看護師や医師が意見を出し合い、入居者・家族の意見も取り入れて作成している。その他に、入居者個々に月目標を作り、日々の張り合いにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時ケース記録を記入して介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所とも連携をとりどんな状況でも対応できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	連絡表をもとに支援体制を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人･ご家族の希望を最優先して各々の医療機関を受診できるように支援している。	法人理事長が医師であり、パソコンで24時間連絡が取れるようになっている。また口腔ケアの研修を職員が受けて、ホーム内で実行し、質の向上を実現した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と常に連携をとりご利用者の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と常に連携をとりまたよりよい関係を築けるように日頃から連絡体制を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とよく話し合い関係機関とも連絡を密にとり支援している。	ホームでは、今年初めて、看取りを経験した。急変時対応や、訪問看護･ドクターとの連携体制などが確立され、職員は多くの学びを得た。また職員の自信にもつながっていることが感じられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会などの学びの場をもち職員1人1人が実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を定期的に行い地域の方にも参加してもらっている。	夜間想定も含め、消防署の指導のもとに避難訓練を行っている。その際は入居者も合同で行う。また地域住民との連携もあり、電話で協力要請する体制が出来上がっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が人格を尊重する事を理解しており配慮している。	新人研修および日々の話し合いで、尊厳への配慮や個人情報の保護について徹底している。入居者は目上の人であり、尊重した声かけをするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者の思いが引き出せるように何気ない声かけ支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向をできるだけ尊重して何気なく支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向をできるだけ尊重して何気なく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で力を合わせて家庭的な楽しい雰囲気作りをしている。	入居者の状況に応じて、とろみをつけたり、切れ目を入れたりして、食べやすく工夫している。食事は美味しく、職員も同じ食卓で楽しく食べている様子が見受けられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の体調をよく観察して細かい献立表などを作成して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員1人1人が口腔ケアの大切さを理解して毎日支援している。		

グループホームじょんから　自己評価（1階ユニット）および評価結果（全体）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを一人一人把握して声かけなどを活かして適切な支援を行うように努めている。	なるべくオムツにしないよう、排泄チェック表をつけてトイレ誘導している。便秘対策として、冷たい牛乳を飲んだり、マッサージをしたりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員1人1人が便秘の重大さを理解しており医師等に相談しながら各々支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後を問わずに希望に沿っている。	以前は時間を定めての入浴にしていたが、現在は常にお湯を張っており、いつでも入れるようにしている。風呂嫌いな人でも、週三日は必ず入るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の生活パターンを大切にして把握に努め支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員1人1人が理解していて状態の変化等に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活き活きとした生活提供が出来るように職員がアイディアを出しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出支援している。普段は行けない場所等は月の行事や誕生日などに行ける協力体制をとっている。	ホームでは外食や行事に力を入れており、楽しみ・わくわく感の演出を工夫している。一方で、外出支援に対する家族の評価は全般的に低く、行きたいところに行けていないという思いがある。	入居者・家族が希望する外出支援とホームが考える外出支援について、運営推進会議等で話し合い、意見の相違を無くすと更に良いと思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に合わせて支援、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に応じて対応、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音等には常に気を配り、季節感が出るよう飾り、写真、等を配置している。	空間が広く、明るく温かい雰囲気の作りである。食堂の隣にはテレビとソファが置かれ、陽のあたるウッドデッキもある。家庭的で使い勝手のよい共用空間である。ドアチャイムなど大きな音で不穏になる入居者に配慮して音には気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペース、ソファー、ウッドデッキ、庭などの場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談しながら使い慣れた物、趣味の物を置いたりしている。	個々の馴染みの品を持ち込み、自分らしいくつろげる居室作りが行われている。花瓶の花等は異食を防ぐため、あえて飾らないように気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の考えを大切にして環境整備に取り組んでいる。		